



彦部家住宅

中世豪族の屋敷構え伝える
連綿と四百五十年の時刻む

畑地をまっすぐに貫いた道が茅葺きの長屋門に吸い込まれるように伸びている。門をくぐると正面に寄棟造りの主屋、右手に隠居屋として建てられた冬住み、左手は室町時代の公家文化の香りを漂わす池泉回遊様式の庭園。広沢町に横たわる八王子丘陵の一つのピークである手白山の東麓に建つ彦部家住宅は、中世の豪族の屋敷構えをほぼ完全な形で現在に伝えている。

築城以来、450年以上の間、ここには連綿として築城者の後裔が住み続けている。全国でも希有なことであり、現在の当主は彦部篤夫さんである。

桐生彦部家の祖先信勝は足利将軍家の重臣晴直の二男で、永禄4年(1561)金山城主由良成繁から広沢郷に千足の地を賜り、屋敷を構えて定住した。父晴信・兄輝信は永禄8年(1565)三好の乱で13代将軍義輝と共に殉死。そこで、信勝は戦乱後、兄輝信の遺児信直を引き取り嗣子としたという。

彦部一族はその後、武士を捨て郷土となり、江戸時代には代々名主をつとめた。明治に入ると機織業を興し、篤夫氏より三代前の彦部駒雄氏は大正末期から昭和初期にかけて桐生織物同業組合の名組合長として業界をけん引。強力な指導力で内外の販路を開拓し、世界大恐慌を克服したと伝えられる。

広大な敷地の中に建つ彦部家住宅は平成4年に国重要文化財に指定された。中世の面影を映す桐生を代表する史跡であるが、織物工場や寄宿舍、医務所も残り桐生織物史の一頁を記した産業遺産でもある。



- 住所／桐生市広沢町6丁目877
- 電話／0277-52-6596
- 国重要文化財・2004わがまち風景賞
- 土・日・祝日開館 入館料／500円(大人)